

安江佐和子 perc. プロデュース

# 「il Sole」 / Y × S Crossing #01

～杉山洋一 影響を受けた作曲家とともに～



プログラム  
「飼いならされたアマリリス」 高橋悠治  
「餵いならされたアマリリス」 増本伎共子  
「委嘱新作 “拍” ～パーカッションのための」 杉山洋一 (Perc. solo)  
「Tree-nation」 杉山洋一  
「委嘱新作～パーカッションのための」 杉山洋一  
「委嘱新作～パーカッションのための」 杉山洋一  
「君が微笑めば、それはより一層澄んでゆく」 杉山洋一 (Piano solo)  
\*プログラムと演奏順は変更になる場合がございます

◎チケット  
一般=4,000円  
学生=3,000円  
(当日、学生証要提示)

パーカッション: 安江佐和子  
ピアノ: 加藤真一郎  
作曲: 杉山洋一

2017年  
4月8日(土) 16:00 開演 (15:15 開場 / 15:30 プレトーク)  
4月9日(日) 14:00 開演 (13:15 開場 / 13:30 プレトーク)  
会場: Tokyo Concerts Lab.  
(トーキョーコンサート・ラボ)

◎予約・お問い合わせ: 東京コンサート  
Tel: 03-3200-9755  
Website: <http://tocon-lab.com/>

音を読み、作品に限りなく近づく、その音を記した作曲家の背景と叫びに耳を擦り寄せて聴きたくなる。杉山洋一の深遠な世界にどこまで彷徨うことができるかわからないが、音という言葉を残さなければという使命感に駆られた。

それが、自分が音を出す意味であると。

「君が微笑めば、それはより一層澄んでゆく」「Tree-nation」

この作品から始めたい理由がある。

なお、「il Sole」はイタリア語で太陽。彼の作品「Il Sole per Joan Miro」（ミロの太陽～パーカッションソロのために）より引用した。

安江佐和子

安江さんの演奏に初めて接したのは高校の頃。クセナキスのプサファでした。その時の感動が今も彼女との関わりの根底に息づいています。この企画での互いの発見が、共演者や聴き手との発見へ発展するのを、心待ちにしています。

杉山洋一



### 安江佐和子

(ソロパーカッション、マリンバ、ティンパニ奏者)

桐朋学園大学卒業、研究科修了。'95よりサイトウ・キネン・オーケストラのメンバーとして活動。小澤征爾指揮、ヨーロッパ、アメリカツアーにてティンパニ奏者として出演。'02文化庁芸術家海外研修員としてベルリンへ留学。ベルリンフィルティンパニ奏者ライナー・ゼーガースに師事。'04～'07.東京フィルハーモニー交響楽団打楽器奏者。'04久石譲全国ツアーにてソロパーカッションとして参加。'11.4月より安江佐和子プロデュース「Prana」をスタート。自身のプロデュースとして構成、演出、パフォーマンス共に高い評価を受ける。ラ・フォル・ジュルネにてマルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル氏と室内楽共演。現在、桐朋学園大学、東京藝術大学非常勤講師。ソロ、アンサンブル、オーケストラと活動は幅広く、プロデュース、レコーディングも多数手掛ける。

©Kyouske Iifune

リズムを超えた「音楽」を求め、歌う、色彩のパーカッションとして、独自の音色感をもった世界を展開する。

Official Website <http://www.sawakoyasue.com/>



### 加藤真一郎

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了(作曲専攻)。ロストック音楽大学、ミュンヘン音楽大学ピアノデュオ科マスター課程修了。文化庁在外研修員としてA・コンタルスキー教授のもとで研鑽を積む。瀬尾久仁とのピアノデュオで多数の受賞。なかでも最難関とされるマレイドラノフ国際2台ピアノコンクールで日本人デュオ初の第1位。国内外での演奏会、NHK「ベストオブクラシック」「名曲探偵アマデウス」「クラシック倶楽部」等への放送出演、都響、東京フィル、京響との協奏曲の共演、多数の邦人作品の初演を行う。作曲家としては2003年芥川作曲賞にノミネート。現在、国立音楽大学(ピアノ)、桐朋学園大学(音楽理論・理論科ピアノ・ピアノデュオ)、東京芸術大学(音楽理論)非常勤講師。

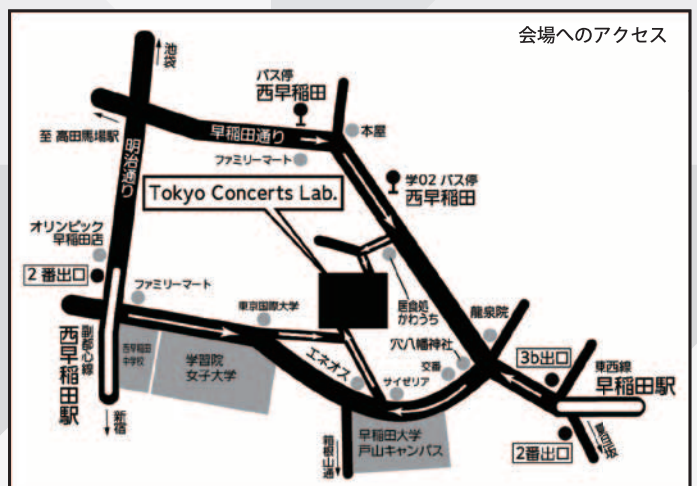
©Marco Borggreve

<http://www.seokato.com/>



### 杉山洋一

1969年東京生まれ。作曲を三善晃、フランコ・ドナトーニ、サンドロ・ゴルリに、指揮をエミリオ・ボマリコ、岡部守弘の各氏に師事。指揮・作曲ともに日欧で活躍。ミラノムジカ、ヴェネチアピエンナーレ、ミュージックフロムジャパンなどより作品を委嘱。阪神淡路大震災のための「灰(1995)」、イラク戦争に抗議する「国境の向こうで(2003)」、スペイン内戦で獄死したミゲル・エルナンデスの詩による「たまねぎの子守歌(2006)」、サハラ砂漠植林計画のための「ツリーネーション(2008)」、絶滅した琵琶湖の昆虫「カワムラナベブタムシ(2008)」など、社会問題を取り上げた作品が多い。東日本大震災復興のための「アフリカからの最後のインタビュー(2013)」では、アバチャ政権に処刑されたケン・サロ＝ウィワが、ガザ侵攻で殺害されたパレスチナの妊婦から生まれた赤ん坊のための「かなしみにくれる女のように、による断片、変奏、再構築(2014)」では、バンショウの引用とパレスチナ・イスラエル国歌が、ニューヨーク市警察エリック・ガーナー窒息死事件のための「禁じられた煙、湾岸通りバラード(2015)」では、黒人霊歌と合衆国歌が、作品の核となっている。2017年第2回一柳慧コンテンポラリー賞受賞。



電車：東京メトロ東西線「早稲田駅」下車徒歩6分(2・3b出口)

東京メトロ副都心線「西早稲田駅」下車徒歩10分(2出口)

電車&バス：JR山手線・西武新宿線「高田馬場駅」下車(早稲田口BIGBOX側)～都バス「西早稲田」下車(「早大正門」行き2つ目)徒歩2分